



一体全体、そ囊(そのう)って何？

What's All The Crop About? [2012年12月14日]

(フードコラム：より自然にそして健康になるための餌の与え方)

著 者：Shauna Roberts

日本語訳：柴田 祐未子

あたりはまだ暗く、太陽が顔を出そうとしていますがまだしばらくかかりそうです。高い木からはカサカサという音が聞こえて、他からはぼんやりとした鳴き声が聞こえてきます。そして、太陽が地平線に現れると、辺り一面に優雅に影が浮かび上がります。鳥たちはねぐらにしている木や巣にしている木の洞から、およそ2マイル（約3km）かそれ以上の距離にあるフォージグ（採食）場所に向かって朝早く飛び立ちます。その場所に到着すると食事を始め、鳥種や場所にもよりますが、その日の午前中と午後の時間にさらに別の場所に移動して餌探しを行います。2～3時間のフォージグの後は、木にとまって、昼前から昼過ぎくらいまでの数時間を過ごします。この時、鳥たちは居眠りしたり、休息をとったり、羽繕いをしたり、お互いを羽繕いし合ったり、ゲームや悪ふざけをして仲間と楽しんでみたり、さえずっておしゃべりをします。そして、夕方前には、木の上や地面でフォージグに戻り、夜を過ごすねぐらに戻る前にそ囊を満たします。

わたしたちはどうやって、このタイプのスケジュールを毎日のルーティンとして飼養下の鳥たちにあてはめることができるのでしょうか。基本的に、一日に二回、朝と夕方前に餌をあげてこれ以上は与えません。しかしながら、鳥にランチを与えるべきか、常に餌をケージの中に入れておくべきか、寝る前におやつはどうしたら？という質問をよく受けることがあります。答えは、一日に2回の食事が最適です。理由は、野生下の食事のルーティンを取り入れると言う単純なものだけではなく、鳥の身体が健康的に機能するためという点を考慮して一日に二回の給餌が必要であり、鳥にはそ囊が備わっているからというのがこの理由の大部分になります。

鳥の身体は効率的に、驚くほど効率的に作られていて、そ囊もその一つです。そ囊は消化過程の一部であり、食道が拡大した袋のようなもので、食べ物を軟らかくして咀嚼します。そ囊の主な機能は食べ物を貯めておくことであり、野生では豊富な食糧が得られる得られないに関係なく毎日使われているものです。私たちは飼養下の鳥たちに過剰な量の餌を与える傾向にありますが、少なすぎてもいけません！鳥は常時、少ない量が胃の中に入っていく身体の作りをしています。そ囊があることで1日に2回の食事（またはフォージグ）では量を多くとることを可能にしています。そして、必要なカロリーを摂るために一日中食べる必要はありません。飼養下の鳥が目の前に常に食べ物がある状態だと、肥満になるほど食べてしまうでしょうし、そ囊を本来の機能のように使うことはないでしょう。

飼養下でのフォージグ

野生下の鳥たちは、朝食や夕食に食べ物が食べやすく切り刻んだ状態で目の前に出てくることはありません。豊富な食べ物があるかもしれませんが、食べ物を探すだけでなく、その日のベストなものを選択してから、敵がいなか注意を払いながらも、食べ物を砕いたり、皮を剥いたり、中身を取り出したりしなければなりません。野生下では食べ物は単に空腹を満たすためだけではなく、日々の活動的なプロセスでもあります。飼養下では、鳥たちのニーズをより良く満たすことが欠けていたり、どうしたらいいかの課題となることがほとんどです。日々の暮らしの中にフォージグ活動を取り入れることで、より幸せなコンパニオンバードとしての暮らしを送ることにさらに近づけるはずです。ここにいくつかのアイデアをご紹介します。食べ物が新鮮な状態であるように、傷んでないか注意を払ってあげてください。

- 新鮮な野菜や果物を串に刺して吊るす。*1
- 新鮮な野菜や果物をケージバーに編み込む。(通す)
- 吊るすタイプのおもちゃと一緒に切った野菜や果物を吊るす。
- もし、(複数羽の鳥を飼っていて) 鳥たち同士の仲が良ければ、時々、大皿でエサを与えてみる(鳥たちは食べるだけでなく仲間とうまくやり取りをして、時には一羽で食べると数分で食べてしまうところを仲間と食べることによって数時間かかることもあります)
- エサ入れを梱包するように包んでみる。紙、あるいは大き目のコラードの葉を使います。最初は、覆った部分に穴を開けたり裂いたりして、どうやって食べるのかを教える必要があります。
- 食べ物を丸ごと与えてみる。葉付きの小さいビーツ(赤カブ)や小さいニンジンなど。
- エサ入れをおもちゃで満たして、その上からシードをばら撒く。シードを探して食べなくてはいけなくなります。
- シードやその他食べ物を清潔な紙で巻く。
- ヒモの間(隙間)にナッツやシードを隠す。

2004年のAAV(鳥類獣医師協会)会議で、Scott Echols(DVM, Dipl ABVP: American Board of Veterinary Practitioners)からフォージグツリーの提案がありました。プレイスタンドにエサ入れをいくつか高さをマチマチに設置して、それぞれのエサ入れには少量の食べ物しか入れません。また、ロープやヒモなどで結んだ食べ物を止まり木から垂らし

て、鳥が引き上げないと（たぐりよせない）手に入らないようにします。そして、おもちゃの中や木片の穴の中に食べ物を隠します。鳥が習得するにつれて、フォーミングスキルを高めていくことができます。

●木片にドリルで穴を開けます。数個の穴を開けてもいいでしょう。ドリルで開けた穴には松の実などのナッツ類を忍ばせます。

●ケージのフン切網の上に紙を敷いて、タオルフォールド*2の中に食べ物を隠してその上に置く。

●Blown Lunch Sack（紙袋）*3の中に食べ物を隠して吊り下げたり、おもちゃとして与えます。

●ステンレス製のバケツの中や綿のかばんを縫ってその中に食べ物を隠す。

アイデアは無限にあります。創造力を膨らませて、最も大切なことは楽しむことです！

【ご注意】上記フォーミングを試す時は以下の点にご注意願います。

- ・素材を鳥さんが呑み込んでいないかどうか。
- ・ヒモなどを使用する際は身体に巻き付かないか。
- ・フォーミングは、体重が減少している鳥さんや引っ越しなどで環境の変化がありまだ慣れていない鳥さんには不向きです。

ここに書かれているアイデアはほんの一部です。鳥さんのレベルに合ったフォーミングを探って、少しずつ楽しみながらお試しください。

*1 ステンレス製の串に刺した様子



*2 タオルフォールド：towel fold、タオルをちょっとオシャレに畳むこと。

「towel fold」で検索するといろいろな畳み方がヒットします。折り紙の要領で紙を折ってその中に食べ物を隠す感覚だと思います。



*3 Blown Lunch Sack

